

内閣官房副長官としての1年を振り返って

平成21年9月16日

松本 純

1. 「ニッポン浮上！」 ～世界最速の景気回復に向け、経済対策に全力

麻生政権が取り組んだ課題のうち、最も重要なものは、「百年に一度」と言われる世界経済・金融危機の克服です。「異常な状態には、異例の対応を」と、半年余りの間に4度の経済対策を実施し、4回の予算を国会で成立させました。

私は、内閣官房副長官として、経済財政諮問会議などでの議論を通じて経済対策の決定に参画し、予算の国会審議でも、麻生総理を補佐しながら、一日も早い経済危機の克服に向けて、全力で取り組んできました。

●経済危機克服のための「有識者会合」

麻生政権は、経済対策に国民の皆さまの声を政策に直結させるよう、本年3月に、約1週間の間に計10回、総勢84人の有識者の方々に日本の各界からご参集いただいて、経済危機克服のための「有識者会合」を開催しました。

私は、週末も含めて、この会合の全てに参加し、有識者の方々の提言に真剣に耳を傾けました。その結果、有識者の方々の提案の8割以上が、「経済危機対策」に盛り込まれることとなりました。

●地域活性化・地方分権

日本が元気になるためには、地域が元気にならなければいけない。それには、国から地方に権限を移し、地方の実情に応じた施策を実施できるようにする。これが麻生政権の基本的考え方です。

私は、麻生総務大臣の下で総務大臣政務官を務めた経験を生かし、地方の首長や議会の方々の要望を総理に代わって直接お受けしたり、官邸と地方団体との意見交換の司会等を通じて、その声を政策に反映させることに尽力しました。

その結果、地方交付税の1兆円増額、経済対策における使い勝手のいい交付金の創設、国の出先機関改革をはじめとする地方分権の推進等の政府の施策につなげることができました。

また、整備新幹線について、政府・与党のワーキンググループ座長として、将来に負担を先送りしないよう財源確保に知恵を絞りながら、北海道、北陸、九州の未着工区間の新規着工へ向けて道筋を示すことができました。

2. 「安心と活力」 ～安心社会の実現に向けて

「安心活力」。これは、今年の年頭会見で麻生総理がお示しした目標です。麻生政権は、日本社会の将来像として、「安心」と「活力」が両立する社会、というビジョンを示しました。

●社会保障国民会議、社会保障改革推進懇談会

我が国の社会保障制度は、「中福祉・中負担」と言われ、国民皆保険・皆年金という世界に誇れる良いものを持っています。他方、医師不足や無年金・低年金問題など医療・年金に関する不安も大きくなっています。

私は、官邸において自ら主宰した有識者の会議を通じて、これら「中福祉」のほ

ころびについては、医師養成数の増加や、地域医療を担う病院への支援、介護報酬の増額や施設の整備による介護サービスの充実、無年金・低年金対策の検討など、「社会保障の機能強化」という方向性を具体的な工程表とともに打ち出しました。その一部は、麻生内閣発足以来の4度の予算編成の中ですでに動きだしています。

また、子育て支援については、これから子どもを生み育てることを望むあらゆる世帯に対応した新しい子育て支援制度の導入と給付・サービスの抜本的拡充を打ち出し、本年6月に「骨太方針2009」で閣議決定しました。

●「安心」と「活力」が両立する社会に向けた取組

「安心」と「活力」を両立する社会を実現するためには、その道筋を明確にして、具体的な政策を実行していかねばなりません。

そのため、麻生政権は、安心社会実現会議を5回にわたって開催し、「新しい日本型安心社会」の将来像を示した報告書を本年6月に発表しました。「全世代・全生涯を通じた切れ目のない安心保障」に向けた具体的な道筋を示した重要な報告書です。

また、将来の経済成長に向けた具体的な道筋も示しました。本年4月に発表した「未来開拓戦略」です。①低炭素革命、②健康長寿、③日本の魅力発揮、という3つの「柱」を立てながら、今後の日本の経済成長の姿を、「太陽光世界一プラン」などの具体策とともにお示しました。

●持続的な社会保障を

麻生政権は、「短期は大胆、中期は責任」として、将来の社会保障財源の確保の道筋も示しました。昨年12月に決定され、今年6月に改定された「中期プログラム」では、3年以内に経済状況を好転させることを前提として、「消費税を含む税制の抜本的な改革」を行う方針を示しました。そして、消費税の全額は、社会保障給付及び少子化対策の費用に充て、すべて国民に還元することも、明確に示しました。

3. 首脳外交を支えて ～「国益」を守るため、世界各地で奮闘

私は、「外交担当の官房副長官」として、麻生総理の精力的な首脳外交を支え、世界経済・金融危機や北朝鮮核・ミサイル問題への対応など、日本の「安全と繁栄」を守るための外交の実現に貢献しました。

●首脳外交を支える「首席随員」として

この1年で、麻生総理の外交関係の出張は計15回という異例な頻度で行われました。私は、そのほぼ全て（海外12回、国内2回）に首席随員として同行し、首脳会談の現場での補佐や、同行記者団に会談の成果を説明する「スポークスマン」として活躍しました。この1年間で同席した首脳会談はのべ70回以上に及びます。

●官房副長官として、外交の一翼を担う

私は、官房副長官として、独自の外交活動も行いました。

昨年11月、オルブライト元国務長官を長とするオバマ次期米国大統領の「政権移行チーム」と、日本政府高官として初めて会談を行いました。他にも、ガザ紛争に際して駐日イスラエル大使と会談し紛争停止を呼びかけるなど、独自の外交活動を通じて、世界の平和と繁栄を目指す日本外交の推進に力を注いできました。

●世界の平和と繁栄のために

麻生政権は、「テロとの闘い」に参加し、世界の平和と繁栄に貢献していくため、

インド洋での自衛隊の補給支援活動を継続してきました。また、毎年約2000隻の我が国関連船舶が通過するソマリア沖・アデン湾地域での海上輸送の安全を確保するため、自衛隊の護衛艦などを派遣して、海賊対処に積極的に参画しています。

私は、こうした国際平和のための日本の協力についても、その法案審議や計画策定段階での調整などに参画して、実現に努めてきました。

4. 国民・国家を守る！ ～危機管理に迅速・的確に対応

官房副長官を拝命してから約1年。その間に、国民・国家の安全に大きく関わる重大な事案が発生しました。私は、日本の危機管理の中核である官邸の一員として、あらゆる事態に速やかに対処できるように、常に官邸へ即座に駆けつけられる体制を整え、万全な備えを心がけてきました。その結果、この1年に発生した様々な事態に、適時・適切に対応できたと考えます。

●北朝鮮核・ミサイル問題への対応に奔走

本年4月、5月に相次いで発生した北朝鮮の弾道ミサイル発射と核実験の際、私は、官邸内での危機対応にあたりつつ、政府と国会・党を繋ぐ官房副長官として、与党の「ミサイル対策本部」で政府の対応を説明して政府と与党との取組の調整をおこなったり、国会での各種会合や委員会審議において政府の取組を説明したり、国民の皆さまの安全・安心のために奔走しました。

●新型インフルエンザに備えて

現在も世界各地、そして日本国内で猛威をふるっている新型インフルエンザへの対策にも、政府は万全を尽くしてきました。

新型インフルエンザが現実発生する以前から、新型インフルエンザ総合訓練などを実施するとともに、経済対策においても抗インフルエンザウイルス薬やワクチン生産・開発体制の整備に必要な予算を確保しました。

本年4月、新型インフルエンザが現実発生してからは、官邸に対策本部を設置し、事態の推移に応じて機動的な対応を行いました。

●自然災害への対応

この1年の間に発生した地震や豪雨災害といった自然災害でも、私は、危機管理の中核である官邸の中で、その対応の中核を担ってきました。

本年8月11日早朝に発生した駿河湾地震の際には、地震発生後、直ちに官邸に駆けつけ、危機管理センターで情報収集に全力を尽くしました。また、本年7月から8月にかけての西日本各地での風雨災害の際にも、官邸を中心に、地元自治体と一丸となって災害救助、応急対策と復旧・復興に取り組みました。

●政府の危機管理体制の強化に向けて

多様な危機にきちんと対応していくためには、政府の危機管理体制をより万全なものとしていくための、不断の努力が必要です。そのために、政府は、実際の災害などを想定した様々な訓練を行っています。

私は、訓練を通じて政府としての危機管理能力の向上に努めるとともに、昨年11月の長野県での国民保護実動訓練では、長野に飛んで政府現地対策本部長を務め、サリンを用いたテロに対処するとの想定で行われた訓練の中核を担いました。

5. 官邸の「窓口」として ～国民、国会との「橋渡し役」

官房副長官は、官邸と国民の皆さま、そして官邸と党や国会との間の「窓口」としての重要な役割があります。

私は、これまでも、国民の皆さまと政治との距離を近づけていくことの重要性を訴え、ホームページなどを通じて開かれた政治の実現に努めてきましたが、官房副長官としても「橋渡し役」の役割を一生懸命務めてきました。

●国民と政府との橋渡し役として

私は、9月3日発行のものまで、第44号にわたって、毎週発行する「麻生内閣メールマガジン」の編集長を勤め上げました。この間、国民の皆さまからの生の声に耳を傾け、いかにして国民の皆さまに麻生政権の政策や総理の考えを分かりやすく伝えられるか、どうすれば政府の動きを生き活きとお届けできるか、毎回、知恵を絞りました。また、毎日行われる官房長官による定例の記者会見についても、必要に応じて、長官代理として記者会見をおこなってきました。

さらに、「世界らん展」や「オーライ！ニッポン全国大会」などのイベントに総理の代理として出席し、総理が政府を代表して行う挨拶を総理に代わって聴衆の皆さんにお伝えするという役目も担ってきました。

大相撲の千秋楽に総理大臣杯を総理に代わって優勝力士に授与するというのも、政府を代表する副長官の仕事として行ってきたことのひとつです。

●政府と国会の橋渡し役として

政府と与党・国会との関係を適切に調整することは、円滑な国政運営には欠かせません。官房副長官は、円滑な国政運営のため、政府の代表として、与党や国会関係者との間の橋渡し役という役割を担っています。

私は、与党・国会と官邸とのパイプ役という「裏方」として働いてきました。毎週行われる党役員会、各種の国会対策委員会関連会議に政府の連絡役として出席し、政府・与党・国会の間の円滑な情報共有に尽力しました。月に1回行われる「政府与党連絡会議」でも、会議の結果を記者会見で説明する役目を果たしました。

6. 横浜とともに、横浜のために ～愛する「地元」にさらなる発展を！

この1年間、官房副長官として国の内外を飛び回る毎日で、また危機管理対応への備えのため官邸を遠く離れることもできず、なかなか我が地元である横浜に帰ることもままなりませんでしたが、私は、その間にも、自分が生まれ育った、愛する地元・横浜のために、汗を流してきました。

●国道357号線「本牧間門町～新磯子町間」が着工へ

平成21年度補正予算で国道357号線の整備費104億円が計上されたことにより、地元の皆さまの長年の悲願であった国道357号線「本牧間門町～新磯子町間」の整備が、ついに現実のものとなりました。

●APEC首脳会談の「2010年横浜開催」が決定

太平洋を囲むアメリカ、ロシア、中国など21の国と地域から首脳が集まる世界最大の国際会議であるアジア太平洋経済協力（APEC）首脳会議が、2010年、横浜で開催されることが決定しました。

コンベンション・シティ横浜の発展を、横浜の皆さまとともに進めてきた私にとって、これはこの上なく喜ばしいものでした。